

2024 年度 はつしば学園小学校 学校評価

1 教育目標

学校理念〈夢と高い志、挑戦、貢献、そして、未来創造〉
教育理念 自らの能力や個性を生かし、創造的に生きることによって、社会に貢献し世界で活躍する人材を育成する
○目指す学校像 ・個性を大切にし、将来社会に出て必要とされる様々な力の基礎を育む学校 ・受験に対応できる学力を育み、内部進学から難関国私立中学校まで幅広い進路選択が可能な学校 ・初等教育機関として社会的評価を有する学校
○育てたい児童像 ・多様な人々との共生と協働の道を探求し、社会で活躍できる子ども ・社会の変化に柔軟に対応できる素地を持つ子ども ・人間形成の基盤となる豊かな心を持つ子ども ・夢を抱き、その実現に向けて取り組もうとする知的エネルギーをもつ子ども

2 中期的目標

1 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成
2 社会の変化に柔軟に対応できる力の素地の養成（主体性、多様性、協働性、学びに向かう力、人間性等）
3 豊かな心の育成
4 英語教育・国際教育の充実
5 はつしばサイエンス・テクノロジー教育の充実・深化
6 支持基盤の確立
7 安定した学校運営

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
① 入学 児童募集において、定員 90 名のところ、出願数 93 名（前年度 108 名）、入学者数 84 名（前年度 89 名）であった。5 歳児人口の減少に伴い、大阪の他の私立小も城星を除き、軒並み苦戦を強いられた。本校も微減となったが、幸い転入が増加していることから児童数(4/1 現在で昨年度の 4/1 より 9 名増加)は確保できている。しかし、2 月の塾対象の説明会の実施等、新たな募集活動を展開し定員充足に努めなければならない。	①委員会の体制 地域代表者（登美丘南校区自治連合会会長） 保護者代表（保護者会会長） 学識経験者（大学講師） 校長・教頭・事務長
② 進学 中学進学において、内部進学者数 35 名（前年度 30 名）内部進学率 43.8%（前年度 39.4%）と 3 年連続の上昇である。のみならず、今年度は、外部難関中学校の合格も灘 1 名・東大寺 2 名・西大和 9 名・洛南 1 名・大阪星光 4 名・四天王寺 4 名・清風南海 22 名という昨年度を大きく上回る結果となった。	②委員会の実施日 第 1 回 2024 年 6 月 4 日（火） 第 2 回 2025 年 3 月 19 日（水）
③ 保護者評価 保護者アンケートは、年 1 回（12 月）の実施。全 31 項目中、肯定的評価が 8 5%以上の項目は、30 項目であった。「わが子を入学させて良かった」の項目では、過去 5 年にわたり 93%から 96%と高い評価を維持できている。ただし、前年度より評価が上昇している項目が 8 項目、下降している項目は 16 項目で、より一層の教育内容の充実への注力の必要性を感じている。	③自己評価の結果に対する評価 ・保護者アンケートの項目について、前年度比較では肯定的評価のポイント数値が下がっている。しかし、全体として 8 割肯定的評価が取れているので委員として評価する。表現や内容が時代や現状に則してしているかを再検討されてはどうか。 ・昔よりより一層、過保護な家庭が増えている。些細なことで揉め事に繋がるだろうということを親が未然に防ぐことは良くないと考える。 学校としては、もし揉め事が起こった時などに、適切なコミュニケーションをとる能力を持ち、それを乗り越えるしなやかでたくましい子どもを育ててほしい。

4 本年度の取り組み

中 期 的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての 改善策
1 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成	(1) 学力推移データ等に基づく現状分析と課題の整理	・到達度テストの学年別現状分析・課題整理と継続検証 ・改善内容の整理、計画をした上での実施	・内部進学率及び難関中学校の合格実績の向上	・本校独自の到達度テストを例年通り 2 回実施。結果を分析し指導に活かした。 ・外部難関中学への合格者 43 名（前年度 22 名）と飛躍的に上昇した。同時に系列校への進学率も伸ばした。	・到達度テストと校内研修は、継続実施
	(2)授業内容の改善・充実	・校内研修の充実 ・教科研究のもと新任研修を実施、教員の授業レベル向上を図る	・実施計画通りの校内研の実施	・各学期に 2 回、年 6 回の校内研修を実施。 ・新任者は研究授業を実施し、授業力向上に努めた。	
	(3)進路指導体制の再編	・習熟度別学習(高学年)の課題整理 ・算数、国語の習熟度別授業の実施と効果的指導の検証 ・教科による学習到達度を明確にし、授業を充実し個々の学力向上を図る	・高学年で習熟度別授業を実践、その効果を検証する。その上で授業改善に活かす	・6 年の習熟度別授業を国語（5 分割）算数（6 分割）で実施し、特に後半は、受験校別対策を行い、一定の効果があった。 ・5 年でも算数を 11 月から 4 分割、3 学期は 6 分割での習熟度別授業を週 3 回実施した。	・習熟度別授業は、6 年生は、例年通り、5 年生は、より組織的に行うため、シラバスの共有を図る
	(4) 内部中学校と連携した学力検証の仕組みづくり	・内部中学校のプレテストや入試問題の研究 ・保護者への周知	・プレテストの積極的受験や入試対策の充実	・6 年 10 月から内部中学校のプレテスト対策を実施。今年度受験者は初立 48 名（前年 37 名）初富 42 名（前年 49 名）となった。内部を担保することで難関校へのチャレンジができ、良い結果につながった。	・次年度は内部進学 50%を目指し、積極的に内部受験を促し、対策を行う

2 社会の変化に柔軟に対応できる力の素地養成	(1) 「グループ・ペア学習」の深化	・学年研、教科研の計画実施	・「グループ・ペア学習」が実践できたか	・教科や学年でグループ・ペア学習に取り組んだ。授業で使用する発展的応用的投げ込み教材（ジャンプ）を教科・学年で研究した。 ・グループ・ペア学習の目的と効果を改めて明確にし、学校全体で取り組めた。	・現状維持にとどまらず、更に深化させるため、外部講師も招聘して研修を実施する ・2、3年の宿泊学習は、変更後の秋に固定し、臨海を安全への配慮のため廃止し、AUS修学旅行への準備としてのイマージョンキャンプを10月実施へ変更する
	(2) 宿泊体験学習の充実	・宿泊活動実施後の検証・改善 ・各学年で実施する宿泊活動の内容を検証し次年度へ繋げる	・学校評価アンケートの満足度が上昇したか	・1年生 本校（7月） 2年生 信貴山（10月） 3年生 多武峰（10月） 4年生 林間鉢伏高原（7月） 5年生 臨海伊勢（7月） 修学旅行 AUS（2月） 6年生 修学旅行長崎（4月） 卒業旅行貝塚（2月） 以上で、宿泊学習を実施した。 ・保護者アンケート「運動会や宿泊行事など、学校行事は楽しく充実している」は、肯定的評価が92%（前年度93%）、児童アンケート94%（前年度95%）と概ね良い結果が出ているが、僅かに下降しているので、次年度以降の課題としたい。 ・5年生は初のAUS ケアンズ（5泊6日）の修学旅行を実施。ミッション遂行型旅行として他に類を見ない内容となった。	
3 豊かな心の育成	(1) 基本的な生活習慣の育成、夢や目標の実現のために必要な力（自己統制力）の育成	・グループ・ペアを基盤とした学級集団の育成 ・道徳部会と連携して思いやりの心の育成 ・自問清掃の見直しと振り返りの実施	・計画通りに実施できたか ・道徳ノートの記入で心の変容をみることでできたか	・評価の在り方までは検討できず、課題を残すことになった。 ・ハンガリーからの自問清掃の視察団を迎え、その意義と深化の余地を確認できた。	・優れた道徳授業実践を共有フォルダーに保存し指導案の共有 ・自問清掃の深化
	(2) 児童支援体制の整備	・1カ月2回から6回へ、SCを1人から2人へ教育相談体制の充実 ・1カ月2回のサポート会議を軸とした教員間の情報共有 ・スクールカウンセラーと連携し、学校・保護者との共通理解を図る ・学校の取組みを保護者へ周知する ・いじめ対策の見直しと改善	・学校評価(保護者)アンケートの満足度上昇 ・学校評価の保護者への公開 ・教育相談、サポート会議等が計画通りに実施できたか ・いじめの早期発見・解決を可能にできたか	・保護者アンケート「豊かな心の育成をめざした取り組みを進めている。」は86%が肯定的評価出会ったが、やや減に転じた。また、「いじめのない風土作りを目指した取り組みを進めている。」は前年度7ポイント減の79%であった。このことを教職員で共有し、具体的な対策を講じる必要がある。 ・3月情報公開の実施。 ・計画通り実施。生活アンケートを毎月実施し、サポート会議において教員間で内容を確認・共有している。 ・SCの来校日数を3倍にしたこともあり、保護者アンケート「学校は、子どもや保護者からの相談に丁寧に応じている。」の肯定的評価は90%（前年度89%）と増加。 ・今年度も重大案件として扱う事例はなく丁寧な対策を講じてきた。しかし、保護者の評価が減じていることを踏まえ改めて研修や組織の見直しの必要がある。	・コロナ禍以来中断していた週1回の「朝礼」の復活で、タイムリーで細やかな指導を行う ・教育相談へよりスムーズにつなげるため、SCによる保護者へのお便りの発行を開始 ・今年度から見直した問題発生時の組織的対応を、より確実に行う
4 英語教育・国際教育の充実	(1) 英語教科化を踏まえた指導目標・学習内容の体系化	・4技能をバランスよく育成 ・各学年の指導目標の明確化と目標達成のためのカリキュラム作成 ・フォニックスを使用したライティングとリーディングの指導の強化	・英語 4 技能をバランスよく育成できたか ・学校評価(保護者)アンケートの満足度上昇	・4技能テストを継続して実施フォニックスの導入で下位層のスペリングと発音の改善に効果がみられた。 ・「英語教育」の肯定的評価87%（前年度と同じ）「国際教育」に対しては88%（前年度83%）と高い満足度を示している。	・world week の実施やイマージョンキャンプの1年生からの導入など、更に英語に触れる機会を増やす
	(2) 授業の充実	・「GrapeSEED」の実践とその効果検証 ・ネイティブ講師と日本人英語教員との連携による授業の実践充実 ・主教材を軸として学齢の興味に沿った教材の選定と実践		・「GrapeSEED」採用後7年を経過し、今後の展開を検討した。 ・2年生までは同時展開で、英語の教員以外も授業に参加でき、学校として英語教育に取り組み始めた。	・2026年度の4年の使用を本格検討開始

		・「Weblio」教材による個別最適化と AI ライティングの導入 ・校内レシテーションを 4 年 5 年 6 年の全員参加で実施	・「Weblio」を最適な方法で使用できたか	・日本人英語教員が主に担当するという変更で、機器のトラブルに対する対応が早まり、学習がスムーズになった。 ・校外での大会廃止により、発表の機会が減ったことが課題として残った。	・週 5 日制に伴い、朝のモジュールでの実施とし、全教員での取組みを強化する
	(3) 上位層を伸ばす仕組み作り	・ 1 年 2 年での習熟度別授業の実践 ・ 英語によるプレゼンテーション活動の充実 ・ インタークラスでは発展的内容を盛り込んで児童の意欲を伸長する ・ レンテーションの優秀者で外部からの審査員を招いて校内大会を実施 ・ 西日本レシテーション大会（実施未定） への出場	・ 習熟度にあった授業づくりができていたか ・ 英語プレゼンテーション活動は計画通りできたか ・ 活動に工夫を加え充実が図れたか ・ 昨年（2 位・6 位） 同様に賞者が出たか	・1 年 2 年の習熟度は充実したものになった。 ・ 例年通りの実施ができた。 ・活動に関しては、安定的にできているが、新しい工夫ができなかったことが課題である。 ・ 外部審査員を迎え、実施できた。 ・ 大会が廃止となった。	・ 習熟度別授業を 3 年生まで拡大実施
	(4) 英語力の検証システムの構築	・ 英検受験のための計画と受験対策 ・ 学年で保持級の把握と、3 年以上の学年目標数値達成のための働きかけ ・ 英検受験の上位級(3 級以上) 取得者の増加 ・ 英検準 2 級以上取得者の掲示による見える化で児童のモチベーションアップを図る	・ 児童の英検級を把握し、上位級への挑戦へ誘導できたか ・ 英検の取得率上昇並びに上位級取得者が増加したか ・ 3 年以上の英検合格者目標に到達したか	・ 取得率（3 年以上）77.4%（前年度 81.9%）、上位取得者（全学年）98 名（前年度 75 名）と上位層の増加はみられた。中位層の伸長に課題が残った。	・ 新たなコンテストを模索中 ・ 英語科と担任団が連携しての目標達成の意識強化 ・ 英検準 1 級以上の合格を目指して、日本人の指導者を採用
	(5) グローバル人材を育成するための日本文化への理解と体得	・ お箏体験（3 年～6 年） の実施 ・ 華道体験（3 年 4 年） の実施 ・ 茶道体験（1 年 2 年） の実施	・ 日本文化に対する理解が深まったか ・ 体験から得る興味や喜びを感じられたか	・ 低学年から日本文化に触れる機会があったことは、保護者の高評価（「国際教育」肯定評価 90%） つながった。	
5 はつしばサイエンス・テクノロジー教育の充実・深化	(1) 理科に関心を持つ心の育成	・ はつしばサイエンスの見直し ・ 理科担当教員の授業力向上（体験的活動の重視と積極的研修） ・ 中学受験に対応した学習支援 ・ 到達度テストにおける平均点向上 ・ 学校評価アンケートの上昇	・ 「科学する心」を育むを目標に 6 年間を見通したカリキュラムを構築することができたか ・ 月 1 回以上の積極的な研修ができたか ・ カリキュラムに沿った授業ができたか ・ 到達度テストの得点力向上ができたか（3・4 年 80 点以上）（5・6 年 70 点以上） ・ アンケート結果が向上したか（満足度 90%以上）	・ カリキュラムの構築と共有はできた。 ・ 年 9 回の教科部会を持ち、特に新人教員の授業力向上に努めた。 ・ 到達度テストは 3 年 88.7（前年 81） 4 年 67.8（前年度 84） 5 年 77（前年度 63） 点 6 年 53.2（前年度 66） とばらつきがある。学年ごとの取り組み方を再度確認する必要がある。	・ テストの位置づけを確認した上で、6 年の目標点は中学入試を考慮しての目標点の再設定をする
	(2) プログラミング学習の実践	・ プログラミング教育実施に向けての実践と研修及び内容検討 ・ I C T 環境の整備 ・ 次年度以降の実践に向けた準備と研修	・ プログラミング教育の実践方針が策定できたか	・ 3 年以上の総合学習でグルーヴノーツとの提携の上、様々なプログラムに取り組んだ。 ・ 保護者アンケート「ICT 機器を活用した効果的な授業を進めている」の肯定的評価は 88%（前年度 91%） ここ 5 年で 2 番目に高い。	
6 支持基盤の確立	(1) 「はたちの集い」の継続 ※18 歳成人を受け、「成人の集い」から「はたちの集い」に変更	・ 9 期生「はたちの集い」の開催と参加率の水準の維持 ・ 卒業後の進路把握	・ 「はたちの集い」を実施し、参加者と懇親の中で、現在の本校への協力を要請できたか	1 月 5 日本校ホールその後、ホテルでの集いに 77 名(卒業生の 75.4%・前年度 56.3%) が参加。	・ 近況や進路先の把握に有効なので、継続実施
	(2) 卒業生への連携強化	・ 卒業生交流サイトの構築と活用の検討 ・ 卒業生の進学並びに進学後の追跡調査 ・ 20 周年を終え、同窓会設立へ向けての準備	・ 卒業生交流サイトは構築できたか ・ 卒業生の進学先並びに追跡調査はできたか ・ 同窓会設立へ向けて具体的な立案実施ができたか	・ 同窓会を通じ「LINE」でのアプリ登録を開始。約半数の現在 450 名登録。 ・ 卒業中学校高等学校の調査依頼をし、地道な把握に努めた。 ・ 同窓会「成業会」を 2024 年 10 月 1 日発足。	・ 各期ごとに幹事を設定し、そこからつなげる作戦遂行中 ・ 同窓会第 1 回総会を 2025 年 10 月に開催する。
	(3) 卒業生・在校生の保護者との入試広報活動での協力体制の強化 ※2024 新規企画	・ 入試広報のポスター・リーフレットの卒業生保護者の関係施設等への設置依頼	・ 一定数の支援者を獲得できたか。	・ 店舗や医院を含め 43 件を達成。	・ 利晶学園への変更も含め 3 月から更新中

	(4)保護者会との教育連携と支援体制の強化	・保護者会との教育連携強化の計画実施 (運動会・ペットボトルロケット作成と発射体験や味噌作り等)	・保護者会と教員とが連携して行事ができたか	・若葉会行事は、予定通り実施できた。 ・新たに2号館エントランスにピアノの寄付を募り、3件の申し出があり、1台をもらい受けた。	・今後は寄付や物品贈与も呼びかけていく
7 安定した学校運営	(1)募集定員の確保	・訪問地域、訪問幼児教室等の拡大 ・従来の関係園や幼児塾へ丁寧な継続的訪問や本校での行事の提案 ・(大阪チャレンジ) 大和川以北大阪市内のへ積極的訪問での新規開拓と本校の周知と大阪での教育講演会の実施 ・募集活動の前倒し ・(インターナショナルスクールローラー作戦) 従来関係のあるインターを含め、新規のインターへの果敢な訪問の実施 ・新規提携園の開拓 ・広報活動への全教職員の参加 ・校内募集関係行事の充実 ・江川校長による「はつ小だより」の活用 ・SNSの積極的な活用 ・はつしば学園幼稚園との連携の継続 ・様々な要因で転出した児童を転入生の受け入れで一定数確保し各学年90名を担保する(2023年度12名)	・重点地域とともに、新規地域への募集活動強化ができたか ・既存の関係のある園や幼児塾と継続性が保てたか ・大阪からの児童入学希望者の増加がみられたか ・年度内(3月)の学校説明会の実施ができたか ・新規インターに本校の教育内容の周知ができたか ・はつしば幼稚園以外の園との連携を進められたか ・全教職員が幼稚園訪問を実施できたか ・校内説明会の内容を工夫し、入学と希望者の参加が上昇したか ・はつしば学園幼稚園との連携が安定的継続的实施できたか	・学校長と教育顧問で新規開拓に努め、少人数でも「子育てサロン」29回を行った。 ・従来から関係のあるところ、新規を含め2026年度入試に向け、初の「塾対象入試説明会」2月18日に実施(32団体40名の参加) ・大阪を意識した募集活動を行ったが、大阪からの出願者11名と前年度から2名のみの増加で、地元堺からの出願者は22名と激減した(65名から43名)。 ・2025年度募集では、3月24日に実施。しかし入学者の増加に結び付かなかったため2026年度入試に向けて2月の塾説明会のさらなる前倒しを試みた。 ・23校の訪問(内、9校が新規)出願数に大きくは影響しなかった(18名・前年度16名)が、興味関心が寄せられている手ごたえはある。 ・提携までは至らなかったが、様々な連携行事が持てた。 ・働き方改革のこともあり、実施せず。 ・インスタでの直前告知をし、参加者は確保できた。複数回参加者が出願につながる傾向は今年度もあった。 ・学校の様子が分かるものという認識が定着した。 ・Instagramのフォロワー数が300から2460へ飛躍的に増加し、「インスタを見た!」という保護者も増えた。 ・例年通りの実施。 ・2024年度も14名の転入生を迎えた。増加の傾向が顕著である。今後も、転入の広報にも注力すべきである。	・「塾対象」の説明会は好評で、次年度からの実施も検討の必要あり ・大阪からの受験生を増やすと同時に、地元に対しても丁寧な広報を心がける ・今年度の挑戦を結果に反映を目指す ・提携につながるまでのチャレンジを継続する ・慎重に検討 ・次年度も継続発信 ・更に工夫し、新しい広報ツールとして活用する ・継続的に10名以上の入学者の確保を目指す ・系列校・立命館大学への道筋を強調し、転入生増加を図る